

## 9<sup>th</sup> Asian Biomaterials Congress (ABMC9) 参加印象記

関西大学化学生命工学部化学・物質工学科

柿木 佐知朗

Sachiro KAKINOKI



9<sup>th</sup> Asian Biomaterials Congress (ABMC9) が、2023年11月20日から21日までマレーシア・ペナンの Bayview Beach Resort で開催されました。Malaysian Biomaterials Society が主催で、Prof. Ismail Zainol (Universiti Pendidikan Sultan Idris, Malaysia) が大会長を務められました。

ペナンは、マレー半島の西側、マラッカ海峡に位置し、マレーシア随一のリゾート地としても知られ、淡路島の半分ほどの面積の小さな島です。1786年から1946年までイギリスに統治され、東インド会社の拠点が置かれて東西貿易の要衝として栄えました。2008年にユネスコ世界文化遺産に登録されたジョージタウンには、その当時のコロニアル様式の建造物が数多く残されています。

この学会は、2007年に Asian Symposium on Biomedical Materials (ASBM) と Asian International Symposium on Biomaterials (AISB) が Asian Biomaterials Congress (ABMC) として茨城県つくば市で開催されたことが始まりであり、それ以降は2年に1回開催されています。第43回日本バイオマテリアル学会大会との併催であった前回(名古屋, 2021年11月)は、コロナ禍の真っ只中でハイブリッド開催でしたが、今回は晴れてオンサイトでの開催となりました。

Plenary Speakerとして、2024年5月に開催される12<sup>th</sup> World Biomaterials Congressの大会長のProf. Ki Dong Park (Ajou University, Korea), 田畑泰彦先生(京都大学医生物学研究所), Prof. Tunku Kamarul Zaman (Universiti Sains Malaysia, Malaysia), Prof. Yudan Whulanza (University of Indonesia, Indonesia) と山岡哲二先生(公立小松大学保健医療学部)らのご登壇され(図1), バイオマテリアル技術

を活用した軟・硬組織の再生医療に関する最新の研究成果などについてご講演されました。

一般演題は計59件(口頭:41件, ポスター:18件)で、日本からの発表は計17件に上りました(図2)。東南アジア諸国のバイオマテリアル研究は、キトサン, 粉殻灰シリカ,



図1 開会式での大会長の挨拶



図2 日本からの参加者の集合写真

### ■ 著者連絡先

関西大学化学生命工学部化学・物質工学科  
(〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35)  
E-mail. sachiro@kansai-u.ac.jp

カジメ(藻類)由来タンニン誘導体, 魚類由来コラーゲンなど, 天然物由来材料の硬組織再生用足場としての利用を目指したものが多く印象でした。

口頭発表は3会場に分かれて実施され, いずれの会場でも, 特に大学院生と思われる若手研究者が大変活発に議論している姿が見られました。私自身も「Collagen backbone-inspired oligoproline for anti-biofouling surfaces」という題目で口頭発表し, 表面化学の基礎的な質問や *in vivo* におけ

る血液反応に関する質問を頂いて議論を深めることができました。また, 今学会を機にマレーシアのバイオマテリアル研究者数名との学術的な交流を始めつつあり, ABMCはアジア諸国のバイオマテリアル研究者の学术交流の場としてますます発展することが期待されています。

本稿の著者には規定されたCOIはない。